PARIS

都市のルネッサンス 先端的モデル

世界の首都パリから学ぶもの

上：グランルーヴルの入口 ガラスのピラミッドの内部
下：デファンス タキスの池からグランドアルシュを望む

特別寄稿

木村 尚三郎
きむら しょうざぶろう

静岡文化芸術大学学長／東京大学名誉教授
愛知万博総合プロデューサー
東京大学文学部西洋史学科卒業　中世と現代を対話させる独特の文明批評に定評がある

主な著書
[ヨーロッパとの対話] [ふりかえれば未来]
[世界の都市の物語 パリ] など多数

魅力ある世界都市の条件とは

世界の各都市で多くの国際会議が開かれますが、そのなかでもパリは抜きん出て開催数が多いのではないでしょうか。なぜか。それはパリが国籍、民族、言語、肌色を分けへだてしないという前提で成り立っている都市だからです。例えば著名な建物をみても新しいルーヴル美術館の設計は中国系アメリカ人のヨー・ミン・ペイですし、新凱旋門グランドアルシュはデンマーク人のスプレッケルセンです。その設計には乗合舟つまりノアの洪水から逃れて世界中の人間みんなで共生していこうという提唱がなされています。パリには世界中の人々の思想と知恵そして感性が集積されているのです。

もうひとつ、パリには歩く楽しさが満ち溢れていることもその理由のひとつでしょう。観光客で賑う表通りから一歩裏通りへ入ると、そこにはふだん着の市民の生活が広がっています。パン屋があり八百屋があり、肉屋があり酒屋があります。何気ない小さな文具屋に数万円もする最高級の万年筆が置いてあるし、食料品店では世界で最もおいしいとされる塩や最高の味のハムを買うことができます。レストランにしても目的の一軒が満席であっても、すぐ近くに同じような決して期待を裏切らないもう一軒の店に入ることができます。質の高い生活文化が街のすみずみに行き渡っているのです。

はじめてパリを訪れた人が地下鉄のなかで見知らぬ人に自分の降りるべき駅を尋ねられることもあります。パリの市民は異邦人を区別しません。ですから一週間も滞在すれば"わが街パリ"ということになります。これらが同じ国際会議でもパリなら無理してでも参加しようと思わせるのではないでしょうか。

人を分けへだてしない、知的なエネルギーを蓄積している、美味しいお酒と料理が楽しめる、これが私の考える世界都市の条件で、これからの都市にとって最も重要なことではないかと考えています。

現代は セカンド ルネッサンスの時代

パリは中世以来、フランスの首都というだけでなくヨーロッパの首都であって、その歴史的な事実がいま一層強い力を発揮しつつあります。なぜなら現代は輝かしい過去の掘り起こし、つまり第二のルネッサンスの時代だからです。

第一のルネッサンスはフランスでは16世紀前半に到来し、穀物が不足し病気が蔓延し、先行きが全く不透明な時代のなかで、人間の生き方と生きる知恵を過去に求めたのでした。古きを温ねて今日に生かす、つまり学ぶに価いするものはクラシック、すなわち正統的な古典であり、それが最も上質のお手本となったのでした。現在のルネッサンスとしてパリでそれを最も象徴的に示しているのはかつての駅舎を甦らせたオルセー美術館ではないでしょうか。1900年のパリ万博に備えて370室のホテルを併設して完成したこの巨大な駅舎は当時から美術宮殿といった風格を備えていたのですが、1986年フランスの建築家グループACTとイタリアの女性インテリアデザイナーアウレンティとによって、美術館として見事に再生を果たしました。19世紀と20世紀初頭にかけての、フランスおよびパリが最も光に溢れた時代を描く印象派の画家たちを中心としたその多彩で豊富な絵画や彫刻作品は、連日世界中から多くの観客を集めています。まさに「パリをみることなく死ぬことなかれ」といわれた古き良き時代の掘り起こしなのです。

この時代のパリの街は、ナポレオン三世の信任を受けたセーヌ県知事オスマンによって大改造され、放射状の並木の大通りブールヴァールやアベニュー、広場や公園、上下水道や橋、ガス灯、そしてガルニエのオペラ座やパリ市庁舎などがすでに整えられ世界で最も新しい壮大な都市計画が実現していました。さらに1889年にはフランス革命100年を記念してエッフェル塔が完成し偉容を見せるとともに、一方庶民の娯楽の殿堂ムーランルージュも開店します。1900年には地下鉄メトロが開通、世界一のガイドブックミシュランも発刊されるというまさにパリが輝く時代なのですが、しかしオルセー美術館はこの時代の象徴としてだけに蘇生したのではありません。

永遠の首都をめざす フランスの国家戦略

フランスは1970年代から、現在のEU統合をにらんだ国家戦略としてパリをヨーロッパの首都とする再創造計画を推進してきました。ポンピドーにはじまりディスカールデスタン、ミッテランと歴代の大統領に引き継がれ、ミッテランによってグランプロジェと名付けられたこの壮大なプロジェクトは、1989年フランス革命200年祭にその成果をひろく世界にアピールしたのです。そしてパリは今もなお世界一ともいえるダイナミズムで変貌しつつあります。私はそこに五つのプリンシプルがあると考えています。コミュニケーション、芸術、科学技術、スポーツ、歴史です。